

はんどちゃん
ネットワーク運動

水戸市
牛久市



サロン活動 レポート

平成25年
2月13日取材

水戸市・牛久市 いばらきコープ 移動店舗 ふれあい便

今回は、新しい形でサロンとの連携を進める、いばらきコープの買い物弱者支援事業『移動店舗 ふれあい便』（水戸市・牛久市で展開）を紹介します。買い物弱者とは、日常の買い物に困難をきたす人を指します。茨城でも増え続けており、いばらきコープでは福祉政策「誰もが安心して暮らせる地域づくり」の一環として、この問題に取り組むことを決定。

2011年より『移動店舗 ふれあい便』の1号車を水戸市内に走らせることとなりました。

「きっかけは、茨城キリスト教

大学の岩間信之先生から買い物弱者について学んだこと、そして総代会議で「買い物弱者」の買い物支援について多くの意見が出されたことです。その後、岩間先生のご協力、水戸市や水戸商工会議所などの推薦をいただく中、経済産業省の「買い物弱者対策支援事業」として認定され、スタートしました。元々コープには共同購入システムはありますが、高齢の方が新会員になるのは、注文の仕方が細かいなどハードルが高かった。でも移動販売車は注文不要。専用車に商品を積み、困っている方々の近くまで何っています」とは、いばらきコープの熊野さん。「難しいのは駐車場の確保でした。民家の庭や駐車場などをお借りし、少しずつ販売停留所を増やしていったんです」。その時、声をあげたのがコープ会員であり、たま

り場『とき荘』の主催者でもある埴直子さんでした。「この近くでもスーパーが減り、年配の方の買い物が不便になっていたの、たまり場にふれあい便を呼ぶ要望を

出しました」と埴さん。結果は上々で、買い物に不便をきたしていたサロンの方に喜ばれたのはもちろん、会員同士、さらに紹介されて買い物に来た方々との会話が增え、家にこもりがちの方も外に出るようになったそうです。「自分で歩いてきて、お財布を出してお金を払うのがいいのよ」とはふれあい便利用者の仁科さん。このように水戸での活動が広がるなか、今度は牛久市から要請を受けます。「牛久市での展開は、牛久市、牛久市社会福祉協議会、牛久市地域包括支援センターといばらきコープが協議会を作りスタートさせました」といばらきコープの藤田さん。牛久市でもたまり場や行政区での販売を行っています。「今の目標は、停留所の確保と利用高の確保です」。いばらきコープは他にも社会貢献事業として『コープデリ宅配』や『夕食宅配』、市町村との『見守り協定』などを行っています。「今後、地域に根差して誰もが安心して暮らせる地域づくりをすすめていきたいと考えています。今回のふれあい便の停留所をたまり場に置けたのは、私たちにとって力強い連携です」と藤田さん。今後、いばらきコープの取り組み、そしてたまり場のような地域の活動との連携は、ますます必要とされていくのではないのでしょうか。



いばらきの社会福祉
Social Welfare of Ibaraki



環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています

発行者

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

〒310-0586 水戸市千波町1918

TEL.029(241)1133(代) FAX.029(241)1434

<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/>

E-mail ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp



携帯電話で読み取るだけで簡単に「茨城県社協HP」にアクセスできます